

MSI通信

Vol.216

●ドル建て金価格 2000ドル突破

先月に続き金価格について取り上げます。というのも、7月中旬以降に騰勢を強めた金市場は、国際価格のドル建て、国内円建て価格ともに過去最高値を突破したからです。メディアで国際価格として報じられているニューヨーク金先物価格は、終値ベースで1オンス(=31.1035グラム)1891.9ドル(2011年8月22日)の従来の高値を7月24日に突破。以降8月4日には初めて2000ドルを突破するなど、9営業日連続で過去最高値の更新を続け、8月6日には2069.4ドルまで達しました。強気の予想でも、よくて年内に2000ドルに届くか否かということでしたので、この時期の史上最高値更新、しかも2000ドル突破は想定外といえるもの。約9年ぶりの高値更新です。

●国内価格 40年ぶりの高値更新

一方、国内円建て価格も、ドル円相場の高着状態(105~107円)が続いていることから、NY金の上昇をそのまま反映する形で急伸することになりました。政府の総合取引所構想により日本取引所(JPX)の傘下に入った東京商品取引所ですが、金の先物取引は7月27日から大阪取引所に移管され取引が始まっています。まさにその移管の当日、国内価格は1980年(昭和55年)1月に記録していた過去最高値・グラム当たり6495円(当時は消費税未導入)を40年6カ月ぶりに突破したのです。

そして8月7日、ドル建て価格の急騰を映す形で大阪取引所の先物価格は7032円まで買われました。同日、現物の国内店頭小売価格(税抜き)は7063円(石福金属発表価格)となりました。

金価格、過去最高値大幅更新が意味すること

●通貨の相対的価値を映す金

円建て価格が過去最高値を更新したことで、金はすべての国で過去最高値を更新したことになります。実は、自国通貨建ての金価格が最高値を更新していないのは、世界中で日本のみになっていました。金はどこの国でも共通の価値を認められ、その国の通貨に換えることができ、それゆえ無国籍通貨として認識されています。もともと主要国で通貨の裏付けとして金が用いられていた(金本位制)歴史的背景から、いまなお金のみが通貨性を認められているのです。円建て金価格の上昇を、視点を金に置いて表現するならば、金に対して円が値下がりしたことを意味します。つまり、日本円は金との関係で、世界中でもっとも購買力を維持していた強い通貨だったのです。

●ニクソンショック=ドルの減価

最後まで金本位制を維持していたのはアメリカですが、今から49年前の1971年8月にドルと金の交換を突然停止しました。国際的な貿易や金融取引で最も使用される通貨を基軸通貨(Key Currency)と呼びます。すでにドルは基軸通貨としての地位を確立していました。貿易や金融取引などの基盤となる国際通貨制度の唐突な変換に、世界の金融経済は大混乱に陥ったのです。時のアメリカ大統領の名前を冠し「ニクソンショック」と呼ばれます。

何ゆえアメリカは突然ドルと金の交換を停止(金本位制の廃止)したのか。もともと1オンス(=31.1035グラム)35ドルで交換を保証していたのですが(固定相場制)、17世紀の昔から金現物取引の中心地となっていたロンドンでは、比較的自由な取引が行われていました。当時ロンドン市場では、1オンス=40ドルほどまで金は値上がりしていました。つまり、40ドル出さないと1オンス

の金を買えなかったのです。

背景にあったのは、アメリカの経済体力の劣化でした。もともとの貿易赤字に加え、ベトナム戦争の戦費負担(想定外の長期化)から財政赤字が膨らみ、その赤字を補うためにドルの発行量も増えていました。否、増やさざるを得ませんでした。いわゆる「双子の赤字」です。

ところが金本位制の下、通貨の発行量は保有する金の量に縛られることになります。それでもドルの発行は増やさざるを得ません。その現状を予見しロンドン自由金市場では、金に対し「ドルは値下がり」していたのです。もちろんアメリカの経済体力は急に落ちたわけではありません。そこに至る過程でリスクを感じ取った国の中には、アメリカの中央銀行・連邦準備理事会(FRB)に対し、外貨準備で保有するドルの金への交換を求めるところが増えていました。最後に最大の親交国イギリスが金への交換を求めたことで、ついにアメリカはギブアップ(交換停止)したのです。

その実態は、アメリカの経済体力に比べ割高に固定されていたドル高に、アメリカ自体が音を上げたというものでした。つまり、ニクソンショックとは「ドルの切り下げ」を意味する経済イベントだったのです。

それ以降、通貨発行は金保有量の縛りを解かれ、中央銀行の裁量に任せる管理通貨制度に移行しました。中央銀行は自由にお札を刷ることができるようになったのです。新型コロナ禍の現在、米国はじめ通貨発行が激増しているのは、広く報じられている通り。金価格の上昇は、まさに通貨の価値が急落していることを表しているのです。そこに政府の財政赤字の急拡大への懸念も加わっています。金価格の上昇は、内外でまだまだ続きそうです。

(クルー 亀井幸一郎)